様式3

令和3年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

学 校 番 号 22

福岡県立八幡中央高等学校　全日制課程

自己評価

学 校 運 営 計 画 （4月）

学校運営方針	校訓および教育目標に則った教育実践により、中央生としての自覚と高い志を持ち社会に貢献できる生徒を育成し、地域や広く社会に信頼される学校文化を築いていく		評　価（総　合）
昨年度の成果と課題	重点目標	具 体 的 目 標	
本校は、創立105年目を迎えるいわゆる伝統校である。学校周辺の地域には卒業生も多く、同窓会からも物心両面にわたり温かい支援を受けており、その期待も大きい。その一方で学校周辺地区では、中学校の生徒数の減少が続いており、本校でも生徒数の確保が難しくなっている。そのような状況において、本校の果たすべき使命は、対外的には保護者や地域に対して確固たる進学実績を示すことであり、校内的には急激に変化する社会に対して柔軟に対応し、活躍できる人材を育成することである。そこで、今年度は、不易流行を大切にしながらも生徒の実態に照らして教育活動全般を見直し、生徒に能動的に学ぶ姿勢を身に付させるとともに、一人一人の能力を最大限に引き出すための多様な学びを実現し、主体的に進路を選択しその実現に向けて粘り強く取り組み、さらには社会の変化に柔軟に対応できる創造性豊かな生徒を育成するための方策を職員全体で共有し実行していく。くしくも本校は今年度の生徒募集において定員割れを起こしており、来年度に向けた生徒募集も本校の重要なミッションとなった。このピンチを最大のチャンスととらえ、全職員で学校変革に向けた取組を推進していく。	① 学習指導（基礎学力の定着、学び向かう力の育成）	鍛ほめ福岡メソッドを根幹に据えた学習指導により、生徒の自ら学ぶ力を育成する。	A
	② 学習指導力の向上（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞに向けた教師の自己研鑽）	生徒の「主体的・対話的で深い学び」を企図した授業改善を行うことにより、生徒の創造的思考及び学ぶ意欲を喚起する。	
	③ 進路指導（高い志を持った生徒の育成）	全体計画に沿ってキャリア教育を推進し、生徒により高い目標設定を促し、生徒の主体的な進路の選択・決定及びその実現を支援する。	
	④ 生徒指導（あるべき姿と誇りを大切にする生徒の育成）	厳しさの中にも温かみのある生徒指導及び生徒主体の学校行事、部活動等を通して、自己決定能力、自己存在感、共感的人間関係を育	
	⑤ 人権・同和教育の推進（自他の人格を尊重する生徒の育成）	多様性を認め、自他を尊重し、いじめや差別のない教育環境をつくる取組を推進する。	
	⑥ 特徴ある教育の推進（他校と差別化された教育の推進）	芸術コース・特進クラスの目的・目標に即した取組を推進し、刺激と調和を生み出す。	
	⑦ 広報活動（教育活動の積極的発信）	教育活動全体を対象とした戦略的広報活動を推進し、生徒募集につなげる。	

価項	具体的目標		具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題
学務部	教務課	充実した正課授業の実現	「対話する授業」「わかる授業」「できる授業」等、生徒が積極的に参加できる充実した授業の実現にむけて改善を図る。教科横断型授業の実施・職員研修などを研修部とともに進めていく。また、授業評価アンケートを行い、授業の工夫・改善に役立てる。	A	B	A	・教科横断型授業導入の初年度としては、研究授業等である程度の認知が進んだと考える。今後はさらに実践を重ね、誰でも指導案を見れば授業ができるというシステムの構築を目指す。 ・コロナ渦にあり、出席率の向上が望めなかった。生徒の出欠については保護者の協力を得ながら生徒の健康安全を第一としながらも、安易な欠席を減らすように努める必要がある。 ・校務支援システムが、本校の成績処理システムとフィットしなかったため、先生方には大きなご迷惑をおかけした。今後、不具合、ミスを減らすようにする一方で、先生方にも期限の厳守をお願いしたい。
		基本的生活習慣の確立・家庭学習の定着	保護者の協力を得ながら、関係各所とも連携を図り、安易な欠席・遅刻を減少(出席率99％以上目標)させる。 また、1日2時間以上の家庭学習時間の確保に努めさせ、教科、学年に学習時間(2時間/1日)確保の方策を要請する。	B			
		情報課との連携・成績処理等の管理徹底	統合型校務支援システムの円滑な運用を行う。	B			
	広報・庶務課	認知度を高める広報活動・学校行事等の充実	関係各所との連携を深めることで学校行事をはじめとした教育活動の推進を図る。また、本校の魅力をオープンスクールや広報媒体等を有効活用し、中学校や地域へ戦略的に情報発信する。	A	A		・コロナ禍のため、夏のオープンスクールや学校行事の中止等があったが、学校紹介ビデオの刷新やスクールミーティングを新規に行い、新たな広報活動を行うことができた。
生徒育成部	生徒指導課	生徒の自己決定能力の育成と規範意識の高揚を図る積極的生徒指導	挨拶の励行、時間の厳守、校則の遵守を柱とし、規範意識の高揚を図り、自己決定能力を育成する。	B	B	B	・学校スローガン「自ら学び　自ら感じ　自ら創る」を実践するべく、生徒の自己決定能力の育成と規範意識の高揚を図る取組を推進してきたが、三本柱の「挨拶の励行　時間の厳守　校則の遵守」においては、さらなる徹底が必要である。 ・生徒会活動については、組織の充実を図り、活性化を推進することが達成できた。次年度においては、学校行事を通じて、さらに高みを目指したい。年間を通しての昼休みの巡視や制服の着こなしの指導、生徒指導強化週間における下校指導を実施し、落ち着いた学校生活の定着を目指した取組を行った。
		共感的人間関係を育む生徒会活動の充実と生徒主体の活動の推進	生徒会役員組織の充実を図り、生徒会活動の活性化を推進するとともに、各種委員会の特色化を図り、生徒主体の行事運営を通して、自己存在感と共感的人間関係を育む。	A			
		授業を中心とした生徒指導の徹底	授業を中心に据えた生徒指導を展開し、授業規律の確立を図る。	B			
	健康教育課	新型コロナウイルスの感染予防対策とインクルーシブ教育推進	新型コロナウイルスの感染予防対策の充実と共生社会実現のためのインクルーシブ教育の推進を図る。	B	B		・今年度初めて担当させていただき、思うように計画を実施することができなかった。来年度は新型コロナウイルスの感染予防はもちろんのこと、温かさを持って、生徒の安全・安心の学校作りに貢献したいと考え
キャリア教育部	進路指導課	3年間を見通したキャリア教育の推進	3年間を見通したキャリア教育計画を示し、視覚的に進路指導の流れを教職員全体で共有し、数値目標達成に向けて生徒を育成する。	A	A	A	・3年間を見通したキャリア教育計画に基づき、生徒カルテや模試分析、スタディサプリなどの活用を推進する。 ・生徒の進路希望や学習状況を職員間で共有し、短期および中長期的な数値目標の達成を目指す。 ・総合的な探究の時間を中心に、地域と連携し、本校の特色を活かした教育活動を充実・発展させているが、依然としてコロナ禍の影響下にあり、予定していた進路行事が計画通り十分に行えていない状況である。次年度に向けては、様々な進路行事を、感染拡大防止に努めながら、日程等を調整しつつ、様々な進路行事を最大限実施する。
		高い志を持った生徒の育成	本校の特色に即した数値目標を掲げ、生徒により高い目標設定を促し、生徒の主体的な進路選択、決定を支援し、進路希望を実現させる。	B			
		特色を活かしたキャリア教育の充実	総合的な探究の時間を中心に、地域と連携し、本校の特色を活かした教育活動を充実・発展させる。	A			
	情報課	適切なデータ管理と活用能力向上	統合型校務支援システムへの学校業務の移行にあわせて既存のワークフローを整理し、業務の効率化を図る。 ICT機器の管理・拡充を担い、ICT活用人材の育成を視野に入れた研修・運用を行う。	B	B		・校内配信・欠席等連絡および中学生対象行事のフォーム化・やむを得ない理由による欠席生徒への授業配信等、新規取組の検討・資料作成・実施に注力したが、業務効率化にはまだ及んでいない。
研修部	研修・図書課	「主体的・対話的で深い学び」の推進	教科横断型授業など「主体的・対話的で深い学び」の新しい授業形態への挑戦を支援するため、校内研修と研究授業のあり方を検討、企画する。	A	A	A	・教科科目横断型の研究授業は、事前の職員研修を含め企画・実施でき、先生方が前向きに挑戦してくださった。次年度も先生方が個性を活かした面白い授業に挑戦する支援を行いたい。 ・図書館利用の推進は今後の課題で読書への興味を高める工夫をしたい。また今年度中止となった芸術鑑賞会についてはすでに次年度の計画を進めている。
		図書館の活用推進と芸術鑑賞会の維持発展	図書館の企画を発信する。授業での図書館利用法を案内する。また生徒数減少の中、良質な芸術鑑賞会を維持するため新しいジャンルを検討する。	B			
	人権教育課	生徒の自尊感情の涵養、安心・安全な学校生活環境作りの推進	「鍛ほめ福岡メソッド」の実践3ヶ条を柱に、教科・学校行事等での実践を推進する。 人権教育推進委員会で、各学年の生徒情報を共有し各部やスクールカウンセラーとの共有を行い対応する。	B	B		・人権教育推進委員会で、各学年からの生徒情報の共有を図り、SCとの連携をとることができた。しかし、コロナ禍の影響で職員研修での外部講師招聘等が行えておらず、来年度は開催できるように進めていく。
1学年		高校生としての基礎基本の充実と徹底	生活面、学習面における自己管理能力を高めさせ、基本的生活習慣を確立し、学力の向上を図る。	A		B	・学年全体の協力体制の下、生活面、学習面ともに一年生として必要な習慣づけができた。今後、各自の進路目標を明確化させると同時に、学習時間内容を充実させ、学力の向上を目指していきたい。
2学年		模試を活用した進路意識の向上の推進	個に応じた進路指導・面談を行い、高い目標設定と情報提供を行う。模試で偏差値50以上30名を目指し、学年全体の意識の向上を図る。	B			・職業ガイダンス等の行事の中で個人に応じた情報提供ができた。しかし、偏差値50以上の生徒が増加していない現状があり、基礎基本の徹底・応用力の向上を各教科担当と連携を図りながら推進していく。
3学年		国公立大学13名以上の進路実現	推薦入試の要となる小論指導を1学期から早めにスタートさせる。また、特進生徒への各教科から＋αの指導徹底を図る。	B			・推薦入試では国公立大学6名合格というう結果であった。 ・一般入試で国公立大学に合格させるためにも、早期から読解力をつける取り組みをする必要がある。
芸術コース		芸術の基礎的知識技能の習得と高い専門性の育成、及び地域貢献活動の推進	検定合格率90％、各種公募展上位入賞（九州大会以上20名）を目標に、取り組む。芸術的技能を生かした地域貢献活動を生徒主体で企画運営する。	A			・目標とする入賞実績や、芸術系進路実績を上げることができた。また地域貢献活動に積極的に取り組ませ、生徒の制作意欲を高めることができた。
特進クラス		4年制進学を目指す高い志の醸成 地域貢献できる人材の育成	7限授業のない日にユメチカを実施する等、進路意識の高揚を図る。九州国際大学と事業等を展開し、高大連携を図る。花尾小学校と交流学習を図り、地域とともにある本校の取組実践を発信する。	B			・コロナ禍、学校外との活動が制限される中、ユメチカでは八幡地区の活性化事業で協働することができた。今後も出来る範囲での活動を継続していくなかで視野を広げ、地域貢献、社会参加の活動をさせていき
事務室		教育環境の整備充実	学校教育目標を実現するため、積極的に必要となる施設、物品の改修・修繕・購入等を行う。	A	A	A	・本館屋上に太陽光発電パネル設置工事が予定されているため、学校運営に支障がないよう考慮しながら、安全・安心を第一に工事を進めていく必要がある。
			学校教育目標を実現するため、予算のより効果的かつ効率的運用を図るとともに、積極的な予算要求を行う。	A			
		事務室の機能強化	学校の課題等について共通理解を持ち、積極的に学校経営に参画する。	B	B		・「働き方改革」の面からもチーム学校として情報共有を図りながら積極的に取り組む必要がある。

学校関係者評価

評　価（総　合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である
A	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	コロナ禍のなか、学校に登校できない生徒に対して、オンライン授業の生配信を展開していただいた。今後も、「学びに向かう力」を育成するためにも、ICT等を活用した対応をお願いしたい。また、学校広報については、ホームページが随時更新されており、本校の魅力をリアルタイムで発信できたことは大変よかったと考えます。
A	学校スローガンのもと、教職員と生徒がその実践に向かって取り組んでいる雰囲気が感じられた。今後も生徒一人ひとりが自己肯定感を高めることができるよう、引き続き丁寧な指導を行っていただきたい。学校行事が相次いで中止となったが、今後も委員会活動等を通して、本校の伝統行事の継承を行って欲しい。
A	先生方のご指導により推薦・AO入試で難関大学合格の結果を残せた。国公立大学受験については、第1学年時より小論文指導等各教科が連携して取り組んでいく体制作りをお願いしたい。情報科において、欠席届等のフォーム入力届けの新設は、働き方改革にもつながる大変有益な取組であったと考えます。
A	教科横断型授業の実践は、先生方の授業力や生徒の学習意欲を高める取組であり、今後も是非、取り組んでいただければと思います。人権教育は、SNSを発端とする誹謗中傷が起きないよう繰り返し生徒には指導していく必要があると考えます。
A	それぞれ設定した各学年の目標実現に向け、先生方から熱心にご指導いただきました。コロナ禍のため3年生の修学旅行や体育大会が実施できなかったことは残念であるが、体育大会実施に向け、学校が何とか取り組んでいこうとしていた姿勢は、生徒には伝わったと思います。 芸術コースの活躍は依然めざましく、地域からの評価も高く、学校のブランド化に貢献していると思います。
A	生徒が安全・安心して学校生活を送ることができるよう、今後も学習環境の充実をお願いします。

評価項目以外のものに関する意見

今後も地域から信頼され、地域とともにある学校として躍進していきますことを期待します。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・学力の向上　：　授業規律を守り、3年間を見通した学習計画の徹底を図る。校外模試の分析を行い、各教科の課題を定期に分析し、解決を図る。
・基本的生活習慣の確立　：「時を守り、場を清め、礼を正す」を基本とした生活指導を充実させる。学校行事を通じて帰属意識を高め、本校生徒としての自覚を高める。
・志の育成　：　キャリア教育を一層充実させ、卒業後を意識した志の育成を、第1学年時より実践していく。
・豊かな人間性の育成　：　本校生徒の誰もが大切にされている雰囲気を学校生活において醸成し、その中で過ごすことにより豊かな人間性や自己肯定感を高めていく。
・学校力の向上　：　地域から信頼される学校になるために、まずは生徒の進路実現を図り、学校行事においては地域との連携を図る機会を積極的に活用する。